

仏法領

ぶつぼりょう

第65号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ

町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org

下は1970年、万博の年、上山した写真



代わり

子は 父の背中を見て育ち
親も父の背中を見て育った

代替り 形はそれぞれだが
いつかは代々残してきた「家」を守り
引き継ぐ時が来る

親の生前か死後か

生きている間に

親は 子へ何を伝えられ
るだろうか

子は 親に

何を聞けるだろうか

いつの時代も 苦悩するのだろうか

(おおき) みつひろ
(太道) 光浩



故郷と人の温もり

今年のお盆は、子どもやお孫さん、親類の方を呼び寄せて一緒に参りした家庭が例年より多かったようです。上の中段写真はその一部です。



このたすき掛けた写真、二つは一九七〇年四月、万博の年に前住職が引率して東本願寺に上山した時のものです。誰が

誰だかわかりますか？

それから約五〇年。皆さんお浄土に還られました。当時、私はまだ中学生。初めての京都旅行。夜行列車で、京都、大阪、和歌山の高野山まで出かけ、約一週間の大旅行。

お盆のお参り先で思いがけず、当時の写真をいただきました。珍道中の会話が大変面白く、人の温もりが未だに深いところに残っています。

私が住職を継いでなんとかやってこられたのは、人は信頼できるものなのだというメッセージを、寝食をともにした田舎の門徒さんたちから頂いたお陰だとあらためて思います。ナムアミダブツ (住)

なにかを引き継いでゆく

ということ

「門徒のみなさま方にはそれぞれの家庭で、家として引き継いでいかれることを何か、お持ちだと思えます。今回は、何を引き継いでゆくべきかということではなく、引き継いでゆく方法について考えてみました。

内には家訓というものがあって、代々引き継いでゆくべきことがはっきりとしているという「家庭もあるかもしれない」「書き物として残らず、口頭で引き継がれている」家庭もあるかもしれません。しかし、そういう立派な家庭ばかりではないと思います。

ところが、日本には何かを引き継いでゆく場合、素晴らしい方法があります。「おやじの背中」ということです。本来、背中には口はないので何かを言い伝えることはできません。

家の代々の当主は、ただ黙って背中を子供に見せておればよかったのです。

おやじの永年の生き様が正直に背中に

顕れているのだと思います。子供はその背中から何かを感じ取って引き継いでゆけばよかったのです。

もっとも、おやじの生き様が悪あがきでないことが大前提であることは言うまでもないことでしょう。



上高屋酒殿の地藏堂遠景

(あべ) まさのり
(阿部) 正紀

◆お寺でのイベントのご案内◆
「おらが町に来て見て
ギャラリー」に参加！

ギャラリーに参加！

皆様におかれましては益々お元気で
お過ごしのことと存じます。黄金色の
稲穂もなくなり、農作業に携われた方、
大変お疲れ様でした。

総代在任中はご協力をいただきありが
とうございました。

さて、以前から門徒以外の人たちに
もお寺を知ってもら

うイベントの必要
性が話し合われて

いましたが、皆作
法要の世話人会席上

で経験が少しあった私
がお話をさせていただき、総代さん方

による実行委員会ができました。

みやこ町は住みやすい環境で、元氣
で生活できる魅力ある町であることを
実感してもらい、そして若人には一層
お寺に理解を深め、先人を敬う心を持
つていただく、何よりも他地区の方に
幅広く上高屋の念信寺を知っていただ
く、そんな意味から今回、「おらが町に
来て見てギャラリー」に参加をするこ
とになりました。



実施日は2016年

10月29日(土曜日)

9時〜午後4時まで

30日(日曜日)

9時〜午後3時まで

概要

【来て見てギャラリー情報】

- みやこ町厚田地区で毎年1週間
これまでに10回開催している
- 24年度は10月27日〜28日に
開催
- 民家ギャラリー(民家)として
開放し、焼き物や木工などの作品
展示や食事を提供し、来場者におもて
なしをするという内容
- 当初の来場者数は250人だったが、
年々増加し、現在は800人程度に
リピーターが多いのも特徴
- ギャラリーの目印として黄色い旗が
道端に立てられている



何年か前の説明文です。

皆様が趣味で作られている手作りの
作品展や、農産物等の即売会場(テント)
も設けます。出品していただく方はお
知らせください。
本堂には旧厚田町の町宝、蔵持山ゆ
かりの掛け軸と写経コーナー。茶室で
お抹茶の接待をいたします。
また、上高屋自慢の無農薬米のおむ
すび、ぜんざいを用意させていただい
つもりです。
最初ですからあまり無理をせず、皆
様にきて見て楽しんでいただく、そん
な気持ちで取り組んでみたいと思いま
す。
しかし、何をするにしても御門徒の
皆様のご協力が不可欠です。とくに世
話人さんに一番ご迷惑をおかけする
と思います。前後の会場設営や片付けに
お手伝いよろしくお願いいたします。

実行委員長 吉田 正和



お寺でイベント

秋彼岸落語会のご案内

オチラクゴ

お寺で落語します！



初心者でも気軽に楽しく笑えます。
興味のある方は、ぜひいらしてください。

■場所 念信寺本堂(みやこ町厚田上高屋 761)

■時間 9月29日(木)夜7時からお助め、
7時30分から落語

■木戸銭 一人300円
ただしお取手をくださった方は無料入場券3枚を進呈します。

◆四代目 桂 梅園治(桂 春園治門下・1980年入門/
上方落語協会所属)

◆二代目 橋家 蔵之助(橋家 園蔵門下・1981年入門/
落語協会所属)

◆桂 小梅(桂 梅園治門下・2011年入門/
上方落語協会所属)

お問い合わせ : 念信寺 (TEL: 0930-42-0329)

↑ 9月29日夜7時より落語会です。



皆作法要でコンサートしました！
(6月25日夜8時)

ピアノ・ピアノニカ演奏 山口芳弘さん

ピアノとピアノを同時に演奏する山口芳弘さん。
念信寺のコンサートは二回目だ。



波浮の港
夏は来ぬ

と日本の歌を優しい
ピアノタッチで演奏し、みんなの心掴む。



外国の曲に入る時、
山口さんが取り出し
たのは

緑の鉢植え。



「ハーブ」だ。

本堂に、一瞬にしてハ
ーブの爽やかな香り
が広がった。

サンタルチア
ポルカ

オクラハマミキサー
ダークンパルシター



一瞬、地中海のカフェコンサートに立ち寄っ
た気分になった。
山口さんの次回の演奏が楽しみです。

と耳馴染みのある
曲を次々に演奏を
続ける。



(大迫 光造)



今回は、下伊良原・釜ノ河内にお住いの NM さんご夫妻および KH さんご夫妻を紹介いたします。

今回は、下伊良原・釜ノ河内にお住いの NM さんご夫妻および KH さんご夫妻を紹介いたします。

N さん宅にお集りねがい、お話を伺いました。



▲ KTさん ▲ NH・Kさん (この記事を書く者のおおいに抜けたところで、皆さん揃の写真撮影を忘れておりました。気が付いた時には既に加藤寿さんは帰宅された後でした。誠にすみませんでした。)

NM さん KH さんは共に昭和十二年生まれの同級生、七十九歳だそう。N さんにしろ、K さんにしろ、今までに生きてこられた間にはいろいろのことがあったそうです。俺の人生は波乱万丈であった、立派な一代記ができるとおっしゃっていた。記者は、本日はそこまで期待していません。別な機会にゆずるしかないと思います。

現在でも村役、とび役、肝いりなど七つも役をお持ちだそうです。台風十二号来襲が、四日になるか五日になるか分からないので、とりあえず部分的に稲刈りも済ませたとのこと。いずれにしろあれこれと活動を続けていることが元気の秘訣かもしれない。とにかくお元気。

ご主人たちが元気なら、負けじ、ご夫人連もお元気。こちらの元気の秘訣は毎朝の散歩とのこと。

朝八時に集落のご夫人方が集合、散歩開始。現在進行中のダム築堤工事の展望台まで歩く。仕事をサボっている作業員がいるかいないか、チェック。大体十時頃に散歩終了。



だが、それで終わらない。それから約一時間程度誰かの家に集まって、コーヒータム。これが毎日の日課。散歩開始から、しゃべり続ける。歩くことよりこれの方がはるかに健康維持に役立っているのではないと思う。

ただ素晴らしいことですね！ 巷で起きるような引き籠り、孤独死など絶対に起きようがありません。

K 夫人がおっしゃる様に住めば都ばい、というのが本当だと実感できました。

ご参考までに、ダム工事の出来具合をお知らせしておきましょう。

(阿部正紀・記)



お二人ともお父様を太平洋戦争で亡くされ、ご苦労なされたら聞いておられます。二人、お母様をとても大事にしておられ、佳きお連れ合いに恵まれました。お会いする度に人柄の良さにほだされ、何とかを教えられます。

(住職)

皆作・永代経法要のレポート

日時 六月二十四日〜二十六日
講師 松月博宣 先生(糸島市 海徳寺)

松月先生の法話をお聞きするのは、私は二度目になります。メリハリのある分かりやすいお話ぶりでした。「諸仏、菩薩にお礼を申す」がタイトルの「永代経」の趣旨だそうです。今回は「自分の人生と仏教」に照準を当ててお話されました。まず、「人生は必ず終わりがあつた」、「死の稽古も必要だ」。そして自分の人生を三段階に分けて見る。第一は親の庇護のもとで成長する時。第二は仕事、結婚、家庭と責任・充実の時。第三はそれぞれの役割が終わり、余生の時。大きく変化しているのは、第三世代が長くなったことです。

長い人生、若い時に見えなかつた多くのものが見え始めます。同時に嘆き、怨みつらみもあつて、人生を虚しいものと感じたりもします。「空過」と言うそうです。が、「救い」もあるのです。



自分の人生をむなししいとか、空しい命だとも思いますか？ 逆に自分の人生、みんな意味があつて、何ひとつ無駄はなかつたと思いませんか？ 仏道としての人生は「思い通りにいかない永遠の不満足で生きていく」、その先にある。限りある命の先に見えている

「仏の存在」と「仏縁」のお話もありました。

「他力本願」は、何度お聞きしても私には難度の高い言葉です。私の理解はこの世での命の終わりの先は阿弥陀仏の浄土があつて、ナムアミダブツと称えれば皆帰つて行ける」です。しかし、死後、もう一度会える世界があると思うとか、信じてとかは、簡単に受け容れられない人も多くいると推測します。

凡人の私にはこの文面では上手く表現できません。ただテーマの言葉として「浄土とこの世」「阿弥陀仏と私」「阿弥陀仏の光と闇」、そして「この世を生き抜く」を頭に入れて、浄土仏教を学んで行きたいと思つています。こうして法座でお話をお聞きして、「仏縁」を得て行くのだと思います。合掌 勉強中のおいさん



川柳 (続編)

約一年ぶりです。

ストレスをぶつ飛ばしてください。

- ◎自己新を 出し続ける この寿命
- ◎手術前 暗証番号 子に聞かれ
- ◎メシまだか 三回言つて 日が暮れる
- ◎薄目開け どちらの世界か まず確認
- ◎不景気は 貧乏だから 分からない
- ◎知つてはいるが 分かつてはいない
- ◎鋭い！と 鈍い人から ほめられる
- ◎宝くじ 外れて貴方の妻でいる
- ◎いい度胸 何のことない 無知なだけ
- ◎古い順に 忘れていかない この不思議

川柳好きのおいさん

秋のお彼岸法要のご案内

朝晩ずいぶん過ごしやすくなりました。皆さまいかがお過ごしですか?ご法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

日時 九月二十八〜三十日

日時	午後一時半〜	午後七時半〜
二十八日(水)	法話	法話
二十九日(木)	法話	法話
三十日(金)	法話	落語会

講師

伊藤 元 先生
二十八日昼〜二十九日昼席
小倉 徳運寺前住職
落語会
二十九日夜7時から

梅園治師匠のコメント



東京と大阪、東西の真打が競演する珍しい落語会です。
福岡大学卒
の梅園治、北九州生まれの蔵之助、福岡県に所縁のある二人の高座に乞うご期待。どうぞ、ご来場ください。



昨年の秋彼岸法要

世話人会議報告

日時

二〇一六年六月二十四日午前十一時より

場所 念信寺仏間にて

参加人数

住職、坊守、責役、総代、オプザーバー、7名
世話人 20名(欠席4名)

議題

- 一、二〇一五年度本山納金
2015年9月29日、日豊教務所にご依頼額を納入しました。
- 二、二〇一六年度本山納金
従来の本山納金に四日市別院修復懇志が追加されたため、二〇一〇年より

法座予定

二〇一六年

正忌・報恩講

十一月二十一〜二十四日

長倉 伯博 師(鹿児島市)

二〇一七年

春彼岸法要

三月二十五〜二十七日

祖父江 佳乃 師
(名古屋市)

皆作永代経彼岸法要

六月二十四〜二十六日

松月 博宣 師
(糸島市)



することにしました。

り六千円から八千円にアップしてお願ひしていました。今年度はそれが終わり、①従来に戻すか、②今後のことを考えて据え置るか、意見がまとまりませんでした。挙手すると①の意見には①7名、②は12名が賛成。挙手の結果に従い、今年度は8千円を秋彼岸までにお願ひして、皆さんの意見をよく聞いて検討

- 三、「おらが町に来て見てギャラリー」に参加の趣旨説明
町おこしに念信寺も参加するについて、上本庄の吉田正和さんより説明をしていただきました。
- 四、ご本尊修復
本堂のご本尊を本格修理するために、滋賀の楽浪文化財修理所に依頼しました。来年3月にできあがる予定です。それまでは親鸞聖人が書かれたお名号をおかけしています。

五、その他

上高屋地区の世話人さんが総代選出のため、全体世話人会の前に集まり話し合いをしました。

行事予定

京都組推進員・お掃除会
9月26日(月)午前10時 念信寺にて

念信寺 世話人会
9月28日(水)午後12時半より

犀川二十八日講
11月9日(水)午後1時半より念信寺にて

お寺の催し・活動



7/15本尊修復引取



6/25永代経のお斎



8/16上高屋、盆踊後のビール!



あしがき

今夏の巻頭は、「受け継ぐ」をテーマにしました。葬式や法事が遺体やお骨の処理になつていき、生き方を受け継ぐ式にならない傾向を感じます。死を面倒くさいものにしてしまわないで、親も子どもにも迷惑をかけたくないなど、と、近辺に多くの独身者がいます。結婚相手募集の方教えて下さい。男女を問いません。

「秋来ぬと 目にはさやかにみえねども 風の音にぞ おどろかれぬる」の心境です。あまりの暑さで滞っていた仕事を、この勢いで片付けたいと思います。

